

公益財団法人日本YWCA 2016年度事業報告

事業年度: 自)2016年4月1日 至)2017年3月31日

1. 平和・人権・環境などグローバルな課題について学習及び普及活動を行い、かつこれらの問題解決のために若い女性のリーダーシップを養成する事業 (公益目的事業1)

「平和」「人権」「環境」「教育」「女性への暴力」「HIVとAIDS」「性と生殖/健康」など女性と子どもに関わる地球規模のグローバルな課題をことに若い世代の人たちに普及啓発することを目的に、若い女性を対象とした以下のリーダーシップ養成プログラムを実施した。プログラムでは座学の他、課題の現場への訪問を重視し、フィールドワークを行い、これらの学習と実践によって国際社会に貢献する次世代の人材養成を行った。

■ひろしまを考える旅2016

日程: 2016年8月9日(火)～12日(金)

主会場: 広島市文化交流会館

テーマ: ひろしまから福島へ、そして世界へ～

参加者: 69名(中学生14名、高校生15名、大学生8名、社会人11名、海外ゲスト6名<中国3名、韓国3名>、通訳2名、広島YWCA4名、担当委員2名、担当職員3名、その他日本YWCA職員2名)、その他リソースパーソン約20名

広島に原爆が投下されてから71年目の夏、広島で、中高生・大学生を中心とした全国からの参加者、各国の留学生および海外参加者を招聘して共に学び、考える平和学習プログラムを実施した。参加者は平和記念資料館で資料を閲覧し、フィールドワークで原爆の跡を巡り、被爆証言を聴いた。このプログラムを通して、若い世代に原爆の被害の実相とアジア・太平洋戦争における日本の加害の歴史を継承し、市民レベルで平和構築を担うユースを育成する一助となった。また、インターン1名、ボランティアリーダー2名を募り、プログラムの企画・運営の力を養うことができた。昨年に引き続き、電通育英会より助成を受けて実施。プログラムは以下のとおり。

- 開会「ようこそ広島へ」、アイスブレイキング、「東アジアの平和について考える」、広島平和記念資料館見学、ワークショップ1、交流会、フィールドワーク①広島城周辺市内コース ②中高生が伝えるひろしまコース ③文学から考えるひろしまコース ④韓国・朝鮮人被爆者の歩みコース、被爆証言、ワークショップ2、碑めぐり、ワークショップ3、想いを伝える、閉会、オプションルツアー(世界遺産 宮島を楽しむ・岩国の米軍基地を訪ねる)



■日韓ユース・カンファレンス2016

日程：2016年8月1日(月)～4日(木)

於：韓国・釜山

テーマ：「核のない世界へのエネルギー転換」

参加者：日本YWCA14名(ユース11名、担当委員1名、担当職員2名) 韓国YWCA21名(ユース15名、担当職員5名、通訳1名)

1 昨年の2015年度は韓国においてMERSコロナウイルスの感染が流行したため、開催直前で中止を余儀なくされたため、2年ぶりの開催となった。2016年度の日韓ユース・カンファレンスは創立70周年を迎えた釜山YWCAを会場に実施。釜山YWCAは地域住民に安全・安心な食料、化粧品、日用雑貨を届ける生協の経営など多彩で活発な活動を展開しているところである。プログラムは基調講演、2つのフィールドワーク、海雲台での反原発キャンペーン Kkangtonマーケットの夜店での夕食など、一つひとつが印象的で有意義なものとなった。韓国の参加者に比べ、日本の参加者が少なかったものの、日を重ねるにつれ、互いに声をかけ合い、国・文化の違いを超えて理解しようとする青年たちの姿に、参加者数の違いは気にならなくなり、互いの違いを難なく乗り越え心を開いていけるのも、青年期の大きな特長であることを実感することができた。

プログラムは以下のとおり。

- 開会式、基調講演、朝の集い、ナショナル・レポート、古里原発周辺のフィールドワーク、海雲台ビーチでの反原発キャンペーン、「ダンデライオン・コミュニティ」訪問、ワークショップⅠ(アクション・プランの作成)、文化交流、ワークショップⅡ(アクション・プランの決定、次回カンファレンス・テーマの協議)、閉会式



2. 青少年の健全な心身育成に資する事業 (公益目的事業1)

豊かな出会いの中で、思いやりと生きる力を育み、平和な未来を創り出す人材を養成することを目的に、中学生や高校生を対象に以下のカンファレンスを実施した。地域や学校をこえた生徒たちの交流や、フィールドワークなどを通して自己を発見し、他者への理解を深め、生きる力を育む一助となった。これらの経験を通して、青少年が地域社会に生きる人たちに目を向け、国際社会の課題を知ることによって、将来、国際的な場で社会貢献活動を担う人材を養成できた。

■中高 YWCA 地区カンファレンス

* 東北・北海道地区

日程：2016年7月28日(木)～30日(土)

於：山形学院高校

宿泊：山形国際ホテル

テーマ：「環境」

プログラム：開会礼拝、ハンドベルコンサート、活

動報告、タベの祈り、朝の礼拝、会津放射能情報センター 片岡輝美さんのお話、福島YWCA活動紹介、蔵



王散策、夕礼拝、朝の礼拝、まとめ(感想文)、閉会礼拝

担当校:山形学院高等学校

参加者:49名:高校生37名、顧問9名:5校

日本YWCAからの派遣者:太田玲子、荒木紀子、橋本倫子(福島YWCAより)

* 関東地区

日程:2016年8月3日(水)~5日(金)

於:東山荘

テーマ:「生きるとは~ハンセン病療養所の歴史に学ぶ」

プログラム:開会礼拝・主題講演Ⅰ、研究発表・FW 事前学習・DVD鑑賞、主題講演Ⅱ、振り返り・活動報告・交流会、晩祷、朝拝、フィールドワーク(カトリック御殿場教会、神山復生・藤原さんのお話し、資料館見学)、分団、発表、晩祷、朝拝、聖研、振り返り、閉会礼拝

担当校:捜真女学校中学校・高等学校

参加者:47名:中学生13名、高校生21名、顧問11名:8校

日本YWCAからの派遣:平澤由比(横浜YWCA職員)、汀なるみ(横浜YWCA運営委員)



* 関西地区

日程:2016年8月8日(月)~10日(水)

於:コープ神戸協同学苑

テーマ:「賀川豊彦から学ぶ〇〇」

プログラム:開会礼拝、映画「死線を越えて」、グループワーク①、学校紹介・YWCAから、朝の礼拝、フィールドワーク:賀川記念館訪問、梅村貞造先生の講演、グループワーク②、朝の礼拝、グループワーク③、グループ発表、閉会礼拝

担当校:啓明学院中学校・高等学校

参加者:85名(中学生39名、高校31名、顧問12名、日本YWCAからの派遣3名、啓明学院OB1名:7校)

日本YWCAからの派遣者:原田雅子(神戸YWCA職員)、川辺比呂子(神戸YWCA会員)



■ 中高 YWCA 顧問総会・研修会

2016年度は、2017年度に開催を計画している「中高YWCA全国カンファレンス」の現地調査を兼ねて、開催予定地である横浜で行った。予定しているフィールドワークの一つである横須賀にも訪れ、横須賀の軍港めぐった後、講師を交えて生徒への伝え方等について協議した。

日程:2016年9月10日(土)~11日(日)

於:10日 横須賀市産業交流プラザ「特別会議室」 11日 横浜YWCA 202号室

出席:12校13名 職員3名

プログラム:<10日>開会礼拝メッセージ野田美由紀(フェリス女学院)、講演 新倉裕史(「非核市民宣言運動・ヨコスカ」メンバー)、フィールドワーク 横須賀軍港めぐり 交流会 <11日>中高YWCA顧問総会、閉会礼拝メッセージ松原恵美子(プール学院)

* 2016 年度顧問総会

日時: 2016 年 9 月 11 日(日・休) 9:00~12:30

於: 横浜YWCA202 号室

出席: 11 校 12 名 委任: 24 校 陪席: 3 名

議事:

- (1) 議長・書記の選出
- (2) 全国中高 YWCA 顧問会運営規程の確認
- (3) 前回記録の確認
- (4) 報告

①中高 YWCA 委員会経過 (2015 年 11 月~2016 年 8 月)、②中高 YWCA 地区カンファレンス、③『YWCA パスポート』発行、④ひろしまを考える旅 2016 報告、⑤日韓ユース・カンファレンス報告、⑥各校中高 YWCA 活動報告

- (5) 協議

①2016 年度中高 YWCA 委員の選出【松原恵美子(委員長/プール学院)、郡司啓子(横浜共立学園)、野田美由紀(フェリス女学院)、半田敦子(女子学院)、肥田信長(とわの森三愛)、山本真司(同志社国際高校)、その他日本 YWCA 運営委員より 1 名)、②2017 年度全国カンファレンスについて(日程: 2017 年 8 月 2 日~4 日 於: 横浜)、③2020 年全国カンファレンスの開催地について、④2017 年度顧問総会・研修会 日程



3. 国連機関および国内外のNGO との協働や機関紙・ウェブサイトでの情報配信等を通して行うアドボカシー(政策提言等)事業 (公益目的事業 1)

国連の諮問機関でもある世界YWCAとの連携と協働のもと、女性と子どもに関するグローバルな課題解決のために政策提言を行った。平和・人権・環境・教育・女性への暴力・HIV と AIDS・性と生殖/健康など、女性と子どもに関わる課題を取り上げたアドボカシー事業を実施し、真理を見極める人材を育成した。また、当法人の公益事業の周知と当法人に対する支援や協力の推進をはかるべく情報発信や広報、ファンドレイジングの促進を行った。それらを YWCA が発行する機関紙やウェブサイトでの情報配信を行った。

国際機関への派遣

■第 61 回国連女性の地位委員会(Commission on the Status of Women, 略称. CSW)への出席

会議日程: 2017 年 3 月 13 日(月)~24 日(金)

日本YWCAより出席日程: 3 月 9 日(木)~19 日(日)

於: 米国・ニューヨーク

主要テーマ: 変化する労働の世界における女性の経済的エンパワメント

日本YWCAより出席: 5 名(ユース 3 名、職員 2 名)

日本YWCAより出席した 5 名は、国連での会議に先立ち、3 月 10 日には世界中の YWCA から参加する 120 人のメンバーを対象にしたトレーニング、11 日~12 日には UN Women を中心に開催されるユース・フォーラムなどに参加。世界YWCAのトレーニングでは、アドボカシー活動の方法をはじめ、効率よくソーシャルメディアを利用する方法や、女性の経済的エンパワメ



ントの課題について各国の事例をわかち合った。3月11日には、世界YWCAとUN Womenとの連携によって初めて開催されたユース・フォーラムに出席。

フェミニズムに男性をいかに巻き込むか、そして世代を超えた交流をテーマにパネルディスカッションやスキルエクスチェンジというワークショップが行われた。女性の地位委員会という場に男性が参加できる、そして発言をしやすい雰囲気は自然に作られているということはジェンダー平等を実現するために欠かせない要素であり、女性だけでなくジェンダー、世代を超えてムーブメントを起こしていくことの重要性を改めて認識することができた。



■日韓YWCAカンファレンス 2016

日程：2016年8月21日(日)～25日(木)

8月22日(月)～23日(火) 第9回日韓YWCAカンファレンス

8月23日(火)～24日(水) 韓国YWCA会員大会出席
於：慶州 The K-Hotel

テーマ：韓国・日本の女性がつくる東アジアの平和ネットワーク

サブテーマ：①東アジアの平和と日本国憲法 9 条
②国連安保理決議 1325 号と東アジアの平和における女性の役割(日本軍「慰安婦」問題、沖縄米軍基地と女性) ③核兵器と原子力エネルギーのない世界のための韓日YWCAの連帯:2015年世界YWCA総会決議の実施のためのアクション・プラン

参加者：韓国YWCA23名 日本YWCA15名



「韓国・日本の女性がつくる東アジアの平和ネットワーク」というテーマで開催した今回のカンファレンスは、前回2014年1月に沖縄で開催した同カンファレンスを踏まえたものであった。私たちは東アジアだけではなく全世界の平和のため「戦争」と「核」の問題が重大な課題であることを再確認するとともに、未来の平和のために過去の歴史について共同の認識が必要であることを合意し、最終日には『日韓女性が創る東アジア平和のための共同声明』を発表した。共同声明には、今後の行動計画を盛り込んだ。

プログラムは以下のとおり。

- <日韓YWCAカンファレンス>開会礼拝、基調講演(カン・ナムスン教授)「ホリスティック・ピースに向けて」、韓国YWCA作成動画、在韓被爆者2世ハン・ジョンソンさん証言、日本YWCA／韓国YWCAからのナショナル・レポート発表、ディスカッション、朝礼拝、アクション・プラン協議、閉会式 <韓国YWCA会員大会>「感謝の広場」(YWCA歴の長い会員・職員への表彰式・トークショー)、集合写真撮影、「分かち合いの広場」(地域別YWCAの活動発表)、「ビジョンの広場」(吉村千恵・日本YWCA

副会長の講演、中国在住の朝鮮族のゲストからの挨拶、世代別会員のパネルディスカッション）＜プログラム後＞ウォルソン原発周辺訪問・住民の方々との交流

■高校生を世界YWCA事務所に送り出し

日程:2016 年 8 月 15 日(月)

参加者:22 名

高校生平和大使が、2016 年度もスイス・ジュネーブの世界 YWCA 事務所を訪問した。日本からの高校生平和大使は、71 年前に日本を襲った残虐行為を忘れないため、広島と長崎への原爆投下のことを話すために、毎年欠かさず、熱意を持ってジュネーブを訪れている。例年のとおり、核軍縮を訴える署名を国連に提出し、世界 YWCA 事務所を訪問するとともに、国際連合軍縮部で発言し、米国の手によって 1945 年に長崎と広島を襲った恐ろしい人道に対する罪と、現在も続く被害について話した。



「日本から来た若者として、私のミッションは世界のあらゆる場所にいる人々にヒロシマとナガサキ、そして核兵器の現実を伝えることです。」これは、核兵器と原子力のない世界を求めて、昨日スイス・ジュネーブにある世界 YWCA を訪問した、22 名の日本の「高校生平和大使」の 1 人が述べた言葉である。また他の一人は、「若者には本当の平和を実現するチカラがあります。」「私たちは全ての兵器を廃絶しなければならないのです。それで初めて、平和な世界に暮らすことが出来ます。」と訴えた。世界YWCAからは、「若者、殊に若い女性をエンパワーすることが、公正で、差別のない、平和な未来への鍵になることを確信した」とコメントがあった。



* その他アドボカシー活動

- * 機関紙「YWCA」の企画・編集・年 6 回発行
- * 中高 YWCA だより「わーいだよ！」年 2 回発行
- * 「核」否定に関する情報をわかりやすく発信
- * ウェブサイトでの情報を国内および世界に向けて随時発信
- * 海外で報道されている日本の憲法等の情報を発信
- * 全国アクション(日本 YWCA Facebook キャンペーン、パブリックコメントや署名運動の呼びかけ、抗議 Fax 送付)
- * 全国会員総会の前日にオープンプログラム「絵本作家:塚本やすしトークライブ～絵本をとおして伝える平和」を実施
- * 政策提言を必要に応じて実施
- * 衆議院憲法審査会傍聴よびかけと報告
- * 民意を無視した政治の情報収集及び他団体協働の集会への賛同、国会前行動への参加
- * 他団体の媒体への情報掲載や、イベント等へ出展

＜声明・要望書＞

- * 抗議声明（2016 年 5 月、沖縄県うるま市において、元海兵隊員による女性暴行殺害事件に対して）内閣総理大臣、アメリカ合衆国大統領宛(5 月 22 日)

- * 第9回日韓YWCAカンファレンス 日韓女性が創る東アジア平和のための共同声明(8月23日)
- * 「高江ヘリパッド建設中止を求める緊急声明」(8月9日)
- * 「核兵器禁止条約」制定交渉開始決議に反対した日本政府に対しての抗議声明 内閣総理大臣宛(11月2日)

<賛同等>

- * 「もんじゅ・再処理の中止と原発再稼働の中止をもとめる意見広告」に日本YWCA会長名で呼びかけ人となる(4月22日)
- * 「高江ヘリパッド建設中止を求める緊急声明」に団体賛同(8月9日)
- * 劇映画『母 小林多喜二の母の物語』後援(10月23日)
- * 「日印原子力協定」に反対する共同アピールに団体賛同(10月26日)
- * 北東アジア非核兵器地帯を求める宗教者キャンペーンに団体賛同(1月22日)

4. 国内外の災害や紛争等に対する緊急支援事業 (公益目的事業 1)

国内外で起こった地震・洪水・事故等の災害や紛争等で被災した女性や子どもたちの安全と安心を確保するために、支援物資や支援金の提供および現地のニーズにあった適切なプログラムを実施した。また、そのために必要なトレーニングされたボランティア等の人材を養成した。

■東日本大震災被災者支援

東日本大震災および東京電力福島第一原発事故により被災した女性や子ども達を対象に以下の中長期支援を行った。

*被災者受け入れのための住宅支援「セカンドハウス」

横浜・名古屋・神戸の3軒を、福島はじめその近隣県の放射能被災下にある家族および単身女性に、交通費の一部を補助し提供。それぞれの地域YWCAにも協力を依頼。

利用者数:延 56名(15 家族)

横浜セカンドハウス 10 家族(おとな 19 名、子ども 18 名)

名古屋セカンドハウス 7 家族(おとな 16 名、子ども 14 名)

神戸セカンドハウス 6 家族(おとな 7 名、子ども 10 名)



*こころと身体の「保養プログラム」

被災による大きなストレスを抱えている母と子に、被災地を離れ、キャンプや観光等の楽しい時間の中で、こころと身体をリフレッシュしてもらうプログラムを全国の地域YWCAと協働し、9か所で13プログラム実施した。



夏の保養プログラム: 函館YWCA・福島YWCA・東京YWCA・静岡YWCA・名古屋YWCA・大阪YWCA・福岡YWCA。参加者 136 名

冬の保養プログラム: 東京YWCA 参加者 8 名

春の保養プログラム: 東京YWCA・京都YWCA・熊本YWCA

- ・ 2016 年度地域YWCAへの被災者支援協働補助金支出総額 1,200,000 円 (上記下線の YWCA を除く)

- ・ 広報として、「ほよ～ん相談会」へ参加

*** 福島市の女性や子どもたちの活動スペースとして、YWCA活動スペース「カーロふくしま」(福島県福島市矢剣町29-3)の運営**

以下を目的として、2016年度も福島を拠点とする事業を展開した。

活動目的:

- ・ 地域の女性の暮らしを再生することを支援する。
- ・ 福島市周辺に住む女性を対象に、暮らし再建のため、自らの、また地域の抱える課題解決のために主体的に行動できる人材を養成する。
- ・ 活動に参加した女性たちが、その後地域に根差した新規活動を立ち上げ、被災地域の復興と活性化を図ることを支援する。
- ・ 全国の保養活動やセカンドハウスプログラムの拠点となる。



<カーロふくしま主催プログラム>

①「カーロふくしま」を拠点とした地域の憩いの場づくり

カラーセラピー&カラーコーディネイト講座 5月27日(金) 参加者9名

スイーツデコのカードケースワークショップ 6月29日(水) 参加者7名

クリスマスにチャレンジ! 手作りソーセージでポトフ 12月1日(木) 参加者8名

フラワーゼリーを作りました 2月10日(金) 参加者6名

②「カーロふくしま」でのお話会・ワークショップ

世界一”豊かな”大統領に学ぶ幸せのヒント 5月18日(水) 参加者15名

熊本地震応援ありがとう報告 7月23日(土) 参加者7名

がんばらないためのかいごカフェ～元気に笑う介護のすすめ～ 11月24日(木) 参加者3名

熊本学園大学より訪問 12月11日(日) 参加者16名

セカンドハウス説明会 3月12日(日) 参加者16名

<地域YWCA主催プログラム>

福島YWCA 福島Y'sカフェ「料理教室」 6月16日(日) 参加者12名、9月15日(木)

参加者8名、

11月17日(木) 参加者12名

東京YWCA 千葉ルーム・福島YWCAとの交流会 6月6日(月) 参加者16名

福島YWCA ワンコインアロマ講座 10月20日(木) 参加者6名

東京YWCA・日本YWCA 知ってトクする! ふくしまへ帰るサポート説明会 2月3日(金)・4日(土)

於:東京 YWCA 会館 参加者15名

<カーロふくしま参加プログラム>

ほよ～ん相談会 2016年夏 於:郡山市緑ヶ丘地域公民館 6月4日(土) 参加者220名

ほよ～ん相談会 2016年冬 於:福島市ラコパふくしま 11月6日(日) 参加者122名

未来館フェスティバル 2016 於:二本松男女共生センター 9月11日(日) カーロブース約25

名来場(うち大人 10 名)

ほよっと全国交流会 2 月 4 日(土)・5 日(日) 於:二本松市男女共生センター 参加者 100 名

<カーロふくしま訪問者総数>

4 月 35 名 5 月 45 名 6 月 53 名 7 月 61 名 8 月 30 名 9 月 56 名 10 月 169 名(内 100 名は福ふくマーケット来場者) 11 月 62 名 12 月 164 名(内 80 名は福ふくマーケット来場者)

1 月 21 名 2 月 43 名 3 月 132 名(内 80 名は福ふくマーケット来場者)…合計 871 名(73 名/月)

登録団体数:15 団体

* 子どもがふみだすふくしま復興応援体験事業「ふくしまから考える 新しいエネルギープログラム」

福島県在住の高校生が、自然エネルギー普及に取り組む個人・団体を県内外に訪ね、その仕組みや使い方を学び、日々の生活で実際に活かし、社会に広めていく活動。それにより、高校生自身の成長を促すと共に、未来のエネルギーについて考え、より柔軟な社会の発展に寄与することを目的に、2016 年 7 月～11 月 全 8 回のプログラムを実施した。このプログラムは、昨年度に引き続き、福島県「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」の助成金 200 万円を得て実施。

参加者: 高校生 5 名、インターン(大学生)1 名、委員・職員 9 名、リソースパーソン・協力者約 20 名

内容及び訪問先:

開催前 7 月 23 日(土)インターンミーティング

於:カーロふくしま

第 1 回 7 月 24 日(日)キックオフミーティング

お話:福島県企画調整部エネルギー課 熊田理希さん

於:カーロふくしま

第 2 回 7 月 31 日(日)県内研修 訪問先:土湯温泉(地熱発電・

小水力発電)・会津電力雄国発電所

(太陽光発電)

第 3 回 8 月 18 日(木)～20 日(土) 県外研修～ドイツの取組を

学ぶ@ドイツ大使館、ソーラークッカー体験～ 訪問先:ドイツ大使館、NPO 法人地球温暖化を考える市民ネットワークえどがわ

第 4 回 9 月 22 日(木・休) 講演会 高校生メッセージ+講演「私たち市民から始める! ～再生可能エネルギーでまちづくり～」 講師:井上保子さん(非営利型株式会社宝塚すみれ発電代表)

於:ラコパふくしま

第 5 回 10 月 2 日(日) 福島での取組とまとめ① コープふくしま野中俊吉さん講座、ワークショップ

於:カーロふくしま

第 6 回 10 月 16 日(日) 福島での取組とまとめ②環境テクノ箱崎亮三さん講座、ワークショップ

於:カーロふくしま

第 7 回 11 月 13 日(日)ワークショップ、発表に向けてのまとめ 於:カーロふくしま

第 8 回 11 月 19 日(土)高校生発表会 於:東京YWCA会館カフマンホール



参加イベント 11 月 3 日(木・休)「第 1 回世界ご当地エネルギー会議サイドプログラム「再生可能エネルギー福島わかもの会議」 於:コラッセふくしま 参加者 45 名

福島県主催成果発表会(ポスター掲示と傍聴参加) 1月28日(土) 於:福島グリーンパレス 参加者100名
わかものたちとの平和交流会(仙台YWCA主催) 3月18日(土) 於:仙台YWCA 参加者28名

助成金・寄付金

- ・ 200万円(福島県「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」)
- ・ 「東日本大震災被災者支援募金」を通年として実施。

■熊本地震被災地支援

2016年4月14日以降に熊本県と大分県で相次いで発生した地震の被災者への緊急支援を実施。4月16日～6月30日までの期間、緊急支援活動を展開。日本YWCA職員2名を緊急支援活動の拠点とした福岡YWCAへ派遣し、福岡から緊急物資を熊本へボランティアの手を経て輸送した。熊本のカウンターパートは、熊本YWCA・熊本学園大学。7月1日以降は、現地の熊本YWCAを拠点とする中長期支援活動へと切り替えた。これら支援活動に必要な財源を確保するため、国内外へ募金を呼びかけた。国内158件、海外YWCA7件より募金が寄せられた。

緊急支援活動の期間、現地の状況を含め、支援活動報告を8回にわたってインターネット上で配信。



緊急支援活動の方針:(4月16日～6月30日)

- ①情報・連絡経路の一本化をはかる。現地の連絡先は熊本YWCA会長。
- ②以下のように物資支援を呼びかける。
 - 一女性と子どもを対象とし品目を限定して地域YWCAのみに呼びかける。
 - 一時期によって必要な支援物資の内容も変わってくるので、まずは締切を4月25日(月)までとする。
 - 一支援物資の送り先については、福岡YWCAの決議機関の了承を待って、送り先を福岡YWCAとする。福岡YWCAから日本YWCA副会長の吉村千恵さんがいる熊本学園大学の避難所に届け、配布を委ねる。
- ③海外のYWCAへ募金を呼びかける。

中長期活動支援の方針(2016年7月1日～2020年3月31日 熊本YWCAを拠点として)

- ①子どもたちの心のケアのためのデイプログラムと春のわくわくキャンプ(福島と熊本の子どもたち対象)
- ②安心して活動できる拠点としての建物の補強
- ③被災した留学生や会員の支援
- ④長期的な活動の担い手の育成や研修(特に若い人材養成のため)
- ⑤熊本で被災した関係団体への支援

■国内外で起こった災害や紛争等の緊急・中長期支援

* 台湾南部地震被災者支援募金

2016年2月6日に台湾南部で発生したマグニチュード6.4の地震によって被害を受けた人びとを支援する、被災者支援募金を呼びかけた。支援金は、2015年度に引き続いて台湾YWCAへ送金。台湾YWCAが実施する、ソーシャルワーカーの派遣、相談活動、緊急物資支援、申請書類作成の補佐などに用いられた。

* ハイチ ハリケーン被災者支援募金

2016年10月4日にハイチに上陸したハリケーン「マシュー」で被災された方々を支援するため、災害時支援募金より世界YWCAを経由してハイチYWCAへ送金。ハイチYWCAが実施する被災した女性・少女たちのための、社会的／精神的エンパワメント、市民活動、リーダーシップなどのトレーニングを含む中長期支援活動に用いられた。

* パレスチナ YWCA の活動支援およびオリーブの木キャンペーン

パレスチナ YWCA が実施している「パレスチナの難民の子どもたちの学びと成長を支援するプログラム」や「女性の自立のための職業訓練」への支援およびパレスチナにオリーブの木を植林する「オリーブの木キャンペーン」に参加し、日本国内で支援を呼びかけた。



5. 地域社会に貢献するボランティアのリーダーシップ養成事業 (公益目的事業 1)

国際規模の社会貢献活動を推進し、質を維持するために継続したリーダーシップトレーニングの実施が不可欠である。以下のボランティアによる全国規模の集会や会議等の社会貢献活動プログラムを日本YWCAに加盟する全国の地域YWCAおよび学校YWCAと、日本YWCAが加盟する世界YWCAに連なる各国YWCAとの協働により実施する。これらのプログラムに参加することによって、ボランティアのリーダーシップが発揮されるようになり、ボランティア・コーディネートを担い、社会状況を分析する力を養い、地域社会・国際社会の女性と子どものニーズに応えながら、主体的に事業の企画・推進を担う、国際的視野にたつ人材が育成される。

■社会貢献活動を推進するボランティアのリーダーシップ養成

国際的・社会的状況を把握・分析し、課題解決のために取り組むべき事業を担うために必要な力を養うための研修会

* 日本YWCAの公益事業の企画会議(運営委員会)

2016年4月17日(日)、6月19日(日)、9月17日(土)～18日(日)、2017年1月21日(土)～22日(日)
3月4日(土)～5日(日) 於: 日本YWCA

* 全国規模の社会貢献事業の企画会議(加盟YWCA中央委員会)

5月21日(土)～22日(日) 於: 国立オリンピック記念青少年総合センター

* 全国の社会貢献事業の拠点である全国のYWCAのリーダーシップ研修(地域YWCA会長会)

5月20日(金) 於: 国立オリンピック記念青少年総合センター



*** 全国規模の社会貢献事業の定期報告およびミッション・ビジョンの確認(全国会員総会)**

11月19日(土)～20日(日) 於:東京YWCA会館



*** 地域YWCAの理事の研修を目的としたプログラムへの協力
呉YWCA**

① 10月1日(土)14:00～17:00 於:呉YWCA 派遣者:西

原美香子・尾崎裕美子 出席者:8名

内容:YWCAのビジョン・組織・職員の働き

② 10月2日(日)14:00～16:00 於:呉YWCA 派遣者:西原美香子・尾崎裕美子 出席者:9名

内容:YWCAの組織と理事・監事の役割、会議運営について

平塚YWCA

① 12月27日(火)11:00～13:00 於:平塚YWCA 派遣者:西原美香子・尾崎裕美子

参加者:5名

内容:平塚YWCAの運営(経営)現状と課題

② 2月13日(月)11:00～15:00 於:平塚YWCA 派遣者:尾崎裕美子・西原美香子

参加者:12名

内容:平塚YWCA会館運営および建築計画について

③ 3月13日(月)11:00～12:00 於:平塚YWCA 派遣者:尾崎裕美子

参加者:10名

内容:YWCAの財政(財務諸表からみえるもの)

*** ボンランティアと共に全国規模の社会貢献事業を推進するためのYWCAの職員研修**

YWCA新職員研修 ステップⅠ

日時:2016年5月7日(土)14:00～9日(月)15:00

会場:7日 京都YWCA 8日 神戸YWCA 9日 大阪YWCA千里

宿泊先:山西福祉記念会館

参加者:15名(東京YWCA1名、大阪YWCA大宮保育園9名、大阪YWCAシャロン千里1名、大阪YWCA1名、神戸YWCA1名、日本YWCA2名)+担当総幹事2名

内容: <5月7日>開会 中山羊奈(大阪YWCA総幹事)、オリエンテーション、自己紹介、YWCAの組織と活動—日本YWCAの全国ネットワーク/世界YWCAのネットワーク 西原美香子(日本YWCA総幹事)、活動の現場をみる—京都YWCA見学 山本知恵(京都YWCA総幹事)・井上依子(京都YWCA幹事)、YWCAで働くとは—先輩職員に聞く① 堀部 碧(京都YWCA幹事)、夕食兼交流会 <5月8日>日曜礼拝へ出席 日本基督教団神戸イエス団教会 活動の現場をみる—神戸YWCA見学 寺内真子(神戸YWCA総幹事)・坪田美紀(神戸YWCA保育園主任保育士)、YWCAの歴史/キリスト教基盤について 鹿野幸枝(公益財法人大阪YWCA代表理事/日本YWCA理事)、YWCAで働くとは—先輩職員に聞く② 秋月啓子(神戸YWCA幹事)、YWCAで働くとは—幹事職・専門職に分かれて研修、参加者同士の交流 <5月9日>活動の現場をみる—大阪YWCAシャロン千里 見学、YWCAで働くとは—先輩職員に聞く③ 川崎一代(大阪YWCAシャロン千里施設長)、ふりかえり、閉会 西原美香子(日本YWCA総幹事)

YWCA新職員研修 ステップⅡ

日時： 2017 年 1 月 18 日(水)13:00(12:30 受付)～20 日(金)13:30

会場： 18 日 東京 YWCA 会館(御茶ノ水)

19 日 午前 日本 YWCA 午後 東京 YWCA 国領センター

20 日 東京 YWCA 板橋センター

宿泊先： 在日本韓国YMCA

参加者： 6 名(東京YWCA3 名、呉・大阪・日本YWCAより各 1 名) +担当総幹事 2 名

プログラム： <18 日> 開会 能美祐子(東京YWCA総幹事)、オリエンテーション、自己紹介、YWCAの組織 & 歴史 尾崎裕美子(日本YWCA総幹事)、グループワークについて 土岐祥子(東京YWCA社会福祉事業部統括責任者)、夕食兼交流 於：未来食堂 <19 日> 朝のつどい、YWCAのキリスト教基盤について ワークショップ 柳下明子(日本基督教団武蔵野緑教会)、クッキングハウス訪問 お話：松浦幸子、東京YWC Aまきば保育園見学 お話：大沢千佳子(園長) <20 日>朝のつどい、板橋センター見学とお話、カフェ・ジョイにて昼食、ふりかえり、閉会 尾崎裕美子

YWCA新幹事研修 ステップⅢ

日時： 2016 年 10 月 13 日(木)13:30～16 日(日)15:00

会場・宿泊先： 愛知県女性総合センター ウィルあいち

参加者： 7 名(神戸1 名、名古屋 4 名、東京1 名、大阪1 名) +担当総幹事 2 名

テーマ： 対人援助者としての YWCA の幹事の働き

講師： 金香百合(ホリスティック教育実践研究所所長/大阪 YWCA 会員)

内容： <13 日>開会礼拝 平城智恵子(広島 YWCA 総幹事)、セッション①「出会いのワーク」「社会人間学 概論：幹事に必要な三つの力～人間力・社会力・対話力」「専科—社会力～過去と現在と未来をつないで、現状分析する～、現場訪問 炊き出し活動 お話と現場同行 岡 健介(日本基督教団東海教会 牧師) <14 日> 朝のつどい 小口綾乃(東京 YWCA)、セッション②③「専科～人間力と対話力 基礎Ⅰ・Ⅱ～対話実習を通してしながら、人間理解を深める～」、セッション④「専科 ホリスティック・アプローチ 部分をつないで、包括的に考え取り組む～理論と自分の現場をつないで、言語化する～」、夕べのつどい 朴 亜紀子(名古屋 YWCA) <15 日>朝のつどい 和田貴子(名古屋 YWCA)、セッション⑤「組織論・グループダイナミクス・リーダーシップ ～組織の普遍性と YWCA という組織の特性～」、セッション⑥「総論 セッション全体のふりかえり・プレゼンテーション・質疑応答」、幹事レポート発表&レポートの書き方、名古屋のお楽しみ Night ! <16 日>日曜礼拝 メッセージ 島しづ子(日本キリスト教団名古屋堀川伝道所 牧師、NPO 法人愛実の会 理事長、みどりファミリー代表)、ふりかえり①—幹事レポートの発表への応答、ふりかえり②—「あなた」にプレゼントしたいチカラ、修了式、閉会礼拝 西原美香子(日本 YWCA 総幹事)

総幹事研修 ステップⅤ

日時： 2017 年 1 月 8 日(日)14:00～17:00

会場： 神戸 YWCA

内容： ①YWCA のユースの育成について総幹事会として協議するために、日本 YMCA 同盟の横山由利亜主事、神戸 YMCA の坂本孝司主事から学生 YMCA の取り組みおよび YMCA のユースリーダーの育成のシステムやビジョンについて伺い、意見交換。②神戸 YWCA 保育園園舎の見学。開設に至る経緯や運営状況の話。

6. 土地建物の貸与および共有事業（収益目的事業 1）

当法人の公益目的事業の実施に必要な資金を補うことを目的として、法人が所有する東京都千代田区九段南 4-8-8 の土地と建物を貸与している。公益目的事業に安定した資金供給のために、建物を良好な状態で維持管理するべく、日常の営繕を実施した。

以上